

町会の 皆様

常盤平陣屋前町会
防災担当

防災訓練に向けて

1 防災とは

災害を **予防・軽減・復興** する事です。

結果的に、**身の安全** を計る事につながります。

防災訓練は、**災害の軽減** に当たります。

ここでは、**地震** と二次災害つながる **火災** について大筋をまとめました。

2 身の安全を計るには、3つの概念があります。

- | | | | |
|---|----|----------------|------|
| A | 自助 | 自分自身で | 身を守る |
| B | 共助 | 家族・近隣・自治会や町会で | 身を守る |
| C | 公助 | 国や地方公共団体の力を借りて | 身を守る |

3 災害に遭遇したら

A B C の順番に身の安全を計る事が望めます。

4 自宅で身の安全が計れなくなったら

地域で公開されている避難経路などに基づいて、**避難を開始** する。

その場合、電気の分電盤（外から電気が供給されている）の
ブレーカーを必ず落とす（家の中に入ってくる電気を遮断する為）。

不在の時に余震などで漏電やショートによって 火災が発生するのを **防ぐ** のが目的です。

5 日頃から災害に対する準備をしておく

※ **断水 や 停電** が発生したら、**すぐには復旧しません。**

水 飲料水・生活用水

食料 防災保存食

ローリングストック方法などで、**一人約3日分**を用意する事が望ましい。

衛生用品 トイレ関連・タオル・マスク・生理用品 など

電源用品 乾電池・モバイルバッテリーなど（ラジオ・懐中電灯・携帯電話ほか）

熱源用品 保温に関するもの や キャンプ用品など

※ 5 については、生活環境に合わせて準備をしておくことをお勧めします。

自然災害の一つ

1 地震

地震とは大地の揺れで、地下の岩石同士が断層と呼ばれる破壊面を境目にして急激にずれ動くことです。

この時、振動が発生し地震動として地表に伝わります。

その規模を表す指標として、マグニチュードと震度が用いられます。

マグニチュード 地震の**エネルギー量（規模）** を表し 10段階で示します。
例：M4.3 や M6.5 など

震度 揺れの**強さ** を示し、 10段階で示します。

震度表示

震度 0	無感	揺れを感じない。
震度 1	微震	屋内で静かにしている人の一部がわずかに感じる。
震度 2	弱震	屋内で静かにしている人の多くが感じる。
震度 3	軽震	屋内にいるほとんどの人が感じ、吊り下げている物が揺れる。
震度 4	中震	多くの人が驚き、棚の物が落ちることがある。
震度 5弱	強震	大半の人が恐怖を感じ、家具が移動することがある。
震度 5強	強震	ほとんどの人が恐怖を感じ、重い家具が倒れることがある。
震度 6弱	激震	立っていることが困難になり、家具が大きく移動する。
震度 6強	激震	立っていることができず、建物に大きな被害が出る可能性がある。
震度 7	烈震	建物が倒壊するほどの非常に強い揺れ。

マグニチュードと震度では **表す指標が違う** 為、
マグニチュードの値が**小さくても** 震源地に近ければ、震度の値が**大きくなり**
マグニチュードの値が大きければ 震源地から**遠くても**、
震度の値が**大きくなる** ことがあります。

二次災害の一つ

2 火災 （地震による火災以外にも対応）

火災が発生した場合（身の安全が確保され、消火器を用いる事が前提）

- A 火事であることを回りに伝え、消防署に連絡する。（119番）
- B 火元に対し**逃げる場所**を確認する（部屋の出入口・玄関など）
- C 火元に対し逃げる場所に **背中を向ける**
煙が**充満**し逃げる方向が判らなくなる 事を防ぐため
- D 火元から **約3M** の処に近づく
- E 火元に消化器の **ホースを向ける**
- F **安全ピンを抜き**、レバーを握り消火を試みる
消火粉末は約**15秒**で無くなります = 近寄るまでレバーを握らない
- G 炎が**天井付近にまで達したら**、もう消火器による消火は出来ません
- H この様な状態になったら **消火を諦め** 確認してあった **背中**の方向に**逃げる**

以上